

堀川
かくれ
産業・土木
遺産

大正の技術を伝える 中橋

江戸時代から架かる「堀川七橋」の一つで、五條橋と伝馬橋の間なので「中橋」と名付けられた。

橋の東側は元材木町・上材木町・下材木町など木材や竹・薪・炭を扱う商人が多く住み、西側は米・味噌・醤油・肥料等を扱う商人が堀川岸に河岸蔵^{かし}を建て、美濃街道を挟み西側に店舗と住居を構えた。堀川の舟運^{いかだ}や筏による木材輸送で繁栄し、城下町の流通基地・問屋街・木材団地などの性格をもつ地域を結ぶ中橋は、城下町の産業を支える橋であった。

大正6年9月に鉄橋に改築され、堀川に架かる中で一番古い橋である。架けられた時代を反映して今では珍しい構造である。橋台は石積みで、橋脚は細い鉄材をリベットで接合して造られている。平成26年に市民の寄附により欄干と床板の改築が行われ上部構造がリフォームされた。齢102歳だが未だかくしゃくとして現役である。

橋だけでなく付帯施設も昔の姿をよく残している。

橋のもとには舟運が盛んなころ水陸を繋いだ共同物揚場が残り、護岸には舟を舫^{もや}う綱を結んだ環が赤錆びた姿を留めている。舟から岸へ足場板を架け、石畳のスロープを上がり道路で待つ大八車などへ荷物を積み替えた。

東南橋詰のスロープには伊勢湾台風での堀川最高水位を示す表示がある。



鋼材をリベット接合した橋脚をもつ堀川で一番古い中橋（大正6年築）
左手に往時の物揚場のスロープが残る

地域のランドマークであり、かつての技術を伝える貴重な存在である中橋は、平成23年に認定地域建造物資産に指定されている。

規模 橋長：25.4 m 幅員：7.3 m
所在地 名古屋市西区那古野一丁目
管理者 名古屋市

堀川
かくれ
産業・土木
遺産

名古屋駅と共に完成 桜橋



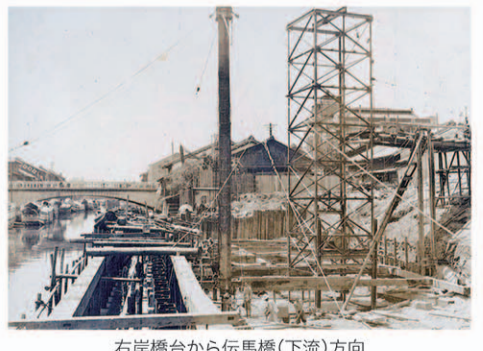
下流から上流方向 清水組(現清水建設)の看板が見える



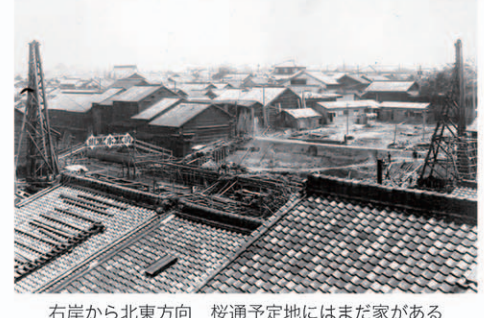
鉄塔はバケットの昇降機 手車でコンクリートを運搬中?



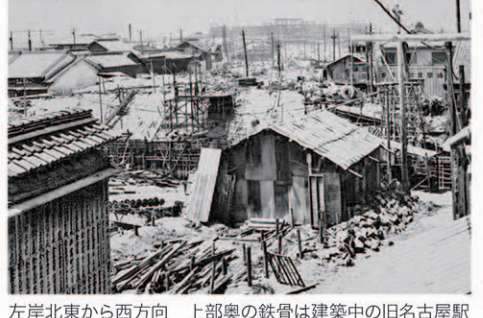
鋼矢板で仕切られた通航路を解か行く



右岸橋台から伝馬橋(下流)方向



右岸から北東方向 桜通予定地にはまだ家がある



左岸北東から西方向 上部奥の鉄骨は建築中の旧名古屋駅

名古屋駅前からまっすぐ東へと延びる桜通が堀川を渡る橋が桜橋である。名古屋を近代都市へ大改造する都市計画事業が大正時代に始まり、第二期事業が昭和4年から行われた。その代表的な道路が、幅43.6mの桜通である。おりしも、笹島交差点の北にあった名古屋駅が現在の地へ移転(昭和12年2月)する事業が進められており、桜通は駅から旧市街地への玄関口として整備された。

桜橋もそれにふさわしい風格のある姿で昭和12年3月に完成した。

